2025年3月23日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

神秘に驚く瑞々しさを

［マタイによる福音書23章1～12節］

それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

[1] イエス様の厳しくも真剣な言葉

　今、教会の暦は、イエス・キリストのご受難の出来事をまた新しく心に刻んでいく「受難節（レント）」を迎えていますが、今日のマタイによる福音書23章は、イエス様が十字架にかかられる三日前に弟子たちに語られた説教だと言われています。先ほどは12節まで読んで頂きましたけれども、その中でも、特に皆から立派な信仰を持っていると思われていた律法学者たちや、ファイリサイ派の人達について、随分と容赦ない言葉を語られているなぁ、と思いますね。イエス様は、彼らの言うことは律法だから良いけれども、その行いは見習ってはいけないよとか、彼らは「先生」と呼ばれることを好んだりするが、「先生」は神お一人なのであって、彼らを「先生」「父」「教師」と呼んだりしてはいけないし、あなた方もそう呼ばれてはいけない。彼らは偉そうに人の目ばかりを気にしている、真に偉い人とは、人に仕える者でなければいけないのだと、語られています。

　そしてイエス様の言葉は、13節以下では、直接に律法学者たちや、ファイリサイ派の人達に向けられます。これがまた凄いですね。少し長いのですけれども、読ませて頂きます。イエス様の言葉です。細かい所で分かりづらい点もあるかも知れませんが、そのまま朗読をお聞き下さればと思います。主イエス様が何を熱く語っておられるのか、それは今の私たちにも伝わってくると思います。当然ですが、人間の言葉（説教）以上に、御言葉そのものを聞くということが大事ですし、ある意味、それで十分なのだと思うのです。では、お聞き下さい。

「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。人々の前で天の国を閉ざすからだ。自分が入らないばかりか、入ろうとする人をも入らせない。 学者とファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする。だからあなたたちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。改宗者を一人つくろうとして、海と陸を巡り歩くが、改宗者ができると、自分より倍も悪い地獄の子にしてしまうからだ。ものの見えない案内人、あなたたちは不幸だ。あなたたちは、『神殿にかけて誓えば、その誓いは無効である。だが、神殿の黄金にかけて誓えば、それは果たさねばならない』と言う。愚かで、ものの見えない者たち、黄金と、黄金を清める神殿と、どちらが尊いか。また、『祭壇にかけて誓えば、その誓いは無効である。その上の供え物にかけて誓えば、それは果たさねばならない』と言う。ものの見えない者たち、供え物と、供え物を清くする祭壇と、どちらが尊いか。祭壇にかけて誓う者は、祭壇とその上のすべてのものにかけて誓うのだ。神殿にかけて誓う者は、神殿とその中に住んでおられる方にかけて誓うのだ。天にかけて誓う者は、神の玉座とそれに座っておられる方にかけて誓うのだ。律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。薄荷、いのんど、茴香の十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしろにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もないがしろにしてはならないが。ものの見えない案内人、あなたたちはぶよ一匹さえも漉して除くが、らくだは飲み込んでいる。律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。ものの見えないファリサイ派の人々、まず、杯の内側をきれいにせよ。そうすれば、外側もきれいになる。律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。このようにあなたたちも、外側は人に正しいように見えながら、内側は偽善と不法で満ちている。律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。預言者の墓を建てたり、正しい人の記念碑を飾ったりしているからだ。そして、『もし先祖の時代に生きていても、預言者の血を流す側にはつかなかったであろう』などと言う。こうして、自分が預言者を殺した者たちの子孫であることを、自ら証明している。 」

このあと少し飛ばして、23:37の言葉をお読みして終わります。―「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。」

とても激しい言葉です。ご自分が捕らえられる日が近いことを覚悟している主の、それだけに真剣な言葉です。自他共に「信仰が篤い」「信仰熱心」と考えられていた、‟信仰を持つ者たち”への言葉です。イエス様は、審いているというよりも、本当に嘆いている、悲しんでおられる、そういう言葉だと思います。「信仰」というのは、本来は、神様への誠実な心だと思いますが、いつの間にかそれが自分を高める手段になってしまうことがあります。「神様神様」と言いながら、結局の所自分を喜ばせる生き方になってしまう…。これ、他ならぬ私たち自身のことですね。悪魔（サタン）は実に巧みです。私たちの向上心とか、自尊心というものをくすぐる形で、私たちを神様から引き離そうとするのです。

イエス様は、12節で、弟子たちに「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」と語られました。私はこの言葉がこの全体の中で一番心に残ったんですね。イエス様は、私たちの「高ぶり」つまり「驕り」にどうしようもなく傾いて行ってしまう心をご存じで、「高ぶりを捨てて、へりくだりなさい」と語っておられると思います。先ほどのイエス様の厳しい言葉を聞いて「まいったなぁ」と私たちは思います。それで良いのだと思います。私たちのことを、私たち以上に知っている方がおられるということですから。そして、その方は、私たちの救い主なのです。私たちのために十字架にまでかかって私たちを丸ごと愛して下さっているお方、その方が語って下さっている言葉ですから、そこには神の愛があるのです。

[2] 神様の神秘に覆われているこの世界、私たち

忘れてはいけないのは、私たちは、元々、神様の素晴らしい作品として造られたということです。楽観主義ではありません。造り主が素晴らしいから、今私たちはこの世にあるのだと思いますね。私、孫が生まれまして、つい先日、生まれて１ヶ月になったばかりのその子を抱っこしました。ああ、可愛い！と、誰もが言ってしまうセリフを私も口から出してしまうのですけれども、赤ちゃんって完璧だな、と思います。命そのものっていう感じです。薄く、柔らかい頬にそっと触れるだけでその子の熱と言うか、命の温かさが伝わってきて、厳かな気持ちになります。赤ちゃんは神秘です。そして、それに触れる者たちを優しく、謙遜にしてくれます。「高ぶる心」なんてどこかに消えていくのです。私たち、そういう「神秘」に触れる経験と言うか、それを持つことって大事な事だなと思います。イエス様は「空の鳥をごらんなさい」と言われましたけれども、それも私たちの目を神様の世界、神様の神秘に向けてごらんなさい、と言われているように思います。

永田美絵さんというプラネタリウム解説員をされている方が『こころにそっとよりそう星空の話』と言う本を出されたそうですが、こんなことを語っているそうです。―「地球の歴史を1年とすると、人間の歴史はほんの13秒ほどです。天文学は人を謙虚にします。上を向いて星を眺め、壮大な宇宙に触れると、いつの間にか日常の些細な悩みは見えなくなっていく筈です」。いいですね。実は私たち自身も一つの宇宙でしょう。赤ちゃんから始まって、やがて神様の許に帰っていくまで、心臓のポンプは体中に血液を送り続けて行きます。顔も手足も内臓も、すべての器官が繋がって、排せつもして、私たちの人生を作ります。「神秘」です。人間存在だけではありません。私たちの「出会い」も神秘です。例えば、家族であること、兄弟、夫婦であること、また教会での出会いもです。私たちは今日、李さんご夫妻と川越教会でご一緒に守る礼拝の最後の日曜日になりましたけれども、この出会いも神秘です。私たちが計画したことではありません。神様が不思議に一緒に礼拝出来るように色んなことを整えて下さいました。私たち川越教会の者は、どれだけ励まされ、また喜びを与えられて来たことかと思います。李さん、本当にありがとう！**감사합니다**（カムサハムニダ）。

…これからだって、私たちの人生、神様のわざ、神秘なことに満ちていくことだと思います。その神秘に驚きながら、感謝しながら生きて行きたいと思います。その時、自ずと、自分を高ぶらせる心よりも、へりくだった心が内に与えられる。鳥のような目線と言いますか、この世界と私たち自身を包んでいる神様の目を感じながら生きて行くことが出来るのでないでしょうか。

主イエス様は、この後、私たち全ての者の罪を赦すために十字架につき、そして、永遠の命を与えるために復活して下さったのです。これこそ、聖書が告げる最大最高の神秘でなくてなんでしょうか！この神秘に私たちは与かっています。お祈り致しましょう。

　神様、今日のこの日の礼拝をご一緒に出来てありがとうございます。「今日、この日」のいのちを与えられているがゆえに、私たちは今ここにあります。信仰を与えられていても、すぐに傲慢な心に陥ってしまう罪深き者です。しかし、そんな私たちをあなたはよ～くご存じの上で、私たちを愛し、赦し、なおこの地上の生の喜びを与えて下さっています。どうか、いつもあなたの恵みに包まれていることに驚いて生きて行くことが出来ますように。約二年間、李さんご夫妻をこの教会に送って下さって感謝します！主にある家族として、これからも覚え合っていくことをさせて下さい。また、皆さんお一人ひとりを恵みの御手で守り、祝福して下さい。私たちの教会のこれからの歩みも導いて下さい。生けるあなたにこそ信頼致します。この祈り、十字架と復活の主イエス・キリストによって御前にお捧げ致します。アーメン。